

森林整備の効率化と省力化に向けた取組

上川南部森林管理署

【はじめに】

上川南部森林管理署の管轄区域は、北海道のほぼ中央に位置しています。東部は大雪山系から日高山脈、西部は石狩山地・夕張山地に挟まれ、北部には富良野盆地が広がる山岳地域です。

管轄する国有林は、上富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村の1市2町1村に広がっており、面積は115千ヘクタールで、管内市町村の約55%を国有林が占めています。

管内の十勝岳・芦別岳・夕張岳などの優れた自然に恵まれている地域は、大雪山国立公園や富良野芦別道立自然公園に指定されるなど、秀麗な山岳と森閑とした湖沼を特徴とする北国らしい景観を持ちます。

【地域林業の現状と課題】

この地域では、人工林の多くが森林資源としての利用時期を迎え、これに伴い、伐採・再造林の面積や森林調査の箇所数も増加傾向にあります。

森林整備の中でも植栽した苗木の生育を妨げる笹や下草を刈り払う下刈は、特に、炎天下での作業が多く、労働負荷が高くなっています。

そのため、再造林の円滑な実施や担い手の確保を推進していく上で、下刈作業と森林調査の効率化や省力化を図ることが継続的な課題となっています。

【課題解決に向けた取組】

当署では、①下刈作業の機械化、②森林調査での地上型3Dレーザスキャナ等の活用に取り組むこととしました。

下刈作業では機械化により効率化や省力化が見込まれることから、地域の民有林関係者を対象とした乗車型自走式草刈機の実演会を開催しました。

参加者には、機械の性能や操作性などに関して理解を深めてもらい、さらに、実際の機械導入に係る課題などについて意見交換を行うなど、機械化に向けた取組を推進しています。



乗車型自走式草刈機の実演会

また、森林調査の効率化と省力化に向けては、全天球カメラや地上型3Dレーザスキャナを活用する森林調査勉強会を開催しました。

参加者に機器を使用した計測作業を体験してもらい、作業性の良さや、森林調査の効率化や省力化につながるイメージを掴んでももらいました。



地上型3Dレーザスキャナを活用した森林調査勉強会

【今後に向けて】

当署では、今後も地域の民有林関係者と連携し、林業における諸作業の効率化や省力化への取組に関する勉強会等を開催し、より役立つ技術情報の発信に努め、民有林の再造林の円滑な実施が図られるように取り組んで行きたいと考えています。